南小だより

文責
学校長
櫻井

年度末へ まとめの学期始まる

二学期末、家庭や地域での生活における「自立と共生」をイメージさせて終業式を締めくくりました。一学期、二学期と語りかけてきた言葉がどこまで身についたかが試された冬休みの生活。普段とは違った特別な時期だけに、誘惑も多く苦戦を強いられたようです。

三学期のスタートは、「自立と共生」に加えて「自律」という言葉を再度示し、**目標に向かって努力し続けられる強い意志を育てる**ことを話しました。

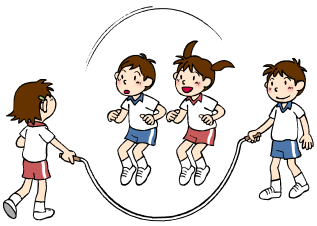
新年に願い事はつきものですが、神頼みだけではなく、願いを実現させるため努力することを大切にしたいものです。

ご協力下さい

三学期開始早々の3連休。生活リズムを取り戻すには良い休養となるかと思われましたが、連休明けの初日にインフルエンザによる感染症が多数出てしまいました。

保護者向けの通知には対応策として細々としたことを書きましたが、次の点にご留意いただき、日頃の健康作りを進めていただければと思います。

- **栄養と休養をきちんととること。**
  (規則正しい生活とバランス良い食事)
- **病原菌への抵抗力を育てる体力作り**
- **衛生的な生活習慣**
  (手洗い・うがいの励行)



町P連代議員研修会 1/18

國學院栃木短大の後藤正人教授を講師に、『人生の名ドライバーを目指して』～「長所にアクセル、短所にブレーキ」～と題した講演がありました。

横浜で長い教職生活を送った体験や、現在その教員を目指す学生を育てている経験から語られた内容は、共感を覚えるものが数多くありました。

限られた時間に多くの内容が盛り込まれており駆け足になったのが惜しまれました。

子どもたちを取り巻く人的環境の重要性を思うと、講座(シリーズ)化して小分けにすることで、多くの方々にもう少し詳しく話していただけると良いと思いました。

年の初めにして年度末を控えるこの時期、改めて未来を支える子どもたちの教育について考えさせられる機会となりました。

校長のつぶやき

学校評価から(その二)

先月号の小欄で取り上げた学校評価の分析が進んだ。今回は、その中でもいくつか見られた傾向について触れたい。

評価項目は町共通の十二の大観点に基づき、保護者は二十六項目、児童は二十一項目、教職員は二十九項目、学校評議員は二十二項目に渡って評価していただいた。概ね良い評価結果となったことは報告済みだが、今回は、対象者の多い保護者による評価結果の中で4点満点中1や2といった低評価が比較的多かったものを取り上げたい。

保護者の評価の中で最も低評価が多かったのは「学校は、保護者・地域住民から寄せられた具体的な意見や要望を把握し、迅速に対応していると思いますか」という設問に対し、八名の児童の家庭が2をつけていた(低評価の割合13%)。改善すべきことへは真摯に取り組むつもりだが、残念なことに記述欄に具体的な指摘が無く、困惑している。

価値観や考え方に多様性が顕著な現在、個人の意見の尊重と全体との調和を図ることがより大切と考えている。そのためにも学校で行われている懇談会やＰＴＡ活動など複数での話し合いの場を充実したものにしたい。

次に低評価が見られたのは、「学校評価の結果は、広く一般の保護者に知らされていると思いますか」という設問で、五名の児童の家庭が2、一名が1をつけていた(低評価の割合10%)。評価結果の公表は年末と評価委員会後二月末の紙上発表二回ということもあり、一年生保護者に低評価が多く見られた(三名+1?)のは致し方ないか。

例年の紙上発表以外に、学校だよりやＰＴＡの集まり等で取り上げることで学校としての取り組みを広く知らせたい。

低評価の三番目は、「学校では、子どもに将来の生き方・夢や希望について考える指導が実施されていると思いますか」という設問で、五名の児童の家庭が2をつけていた(低評価の割合8%)。児童には「将来なりたい仕事ややってみたいことがありますか」という設問があるが、一名の児童が2、三名が1をつけていた(低評価の割合7%)。プロスポーツの選手や芸能人ばかりでなく、**身近な大人の私たちが、子どもたちに夢を与えられる大人、夢の実現に向けて道筋を示せる大人でありたい。**

冒頭に書いたように概ね良い評価結果の中、あえて今回は保護者からの負の評価について取り上げ、今後の取り組み姿勢を示した。先月の小欄にも書いたが、学校の教育活動をよく知っていただき、**共に手を携え、子どもたちの成長への協力を願ってやまない。**